

配置業界、夏の終わりのハーモニー 合併発表と業界功労者の逝去

発行：日本置き薬協会 事務局

丁度二年前の本紙第117号で「配置は川の流れるように寡占に進む」とした。配置製薬最大手（株）廣貫堂の直系配置販社、広貫堂薬品販売（株）と、岐阜県関市を拠点とする中堅配置販社、河上薬品商事（株）は、お互いが出資して新会社「広貫堂河上薬品グループ（仮称）」を来年4月1日に設立し、配置販売部門の経営統合をすると発表。冒頭の表題の流れのようになった。以下、業界紙「薬日新聞8月27日号」の記事を転載する。

河上薬品商事（株）の配置販売部門は現在、東海地域を中心に13府県、23拠点、約140人、得意先件数約13万軒、売上は約21億円を今年度は予定。また広貫堂薬品販売（株）は12都道県、17拠点、約130人、得意先軒数約11.1万軒、売上は約14億円としている。

経営統合によって両社で重複する取扱商品や全国の営業拠点を整理し、販売管理費等を圧縮するなどして配置員一人当たりの生産性を高める。河上薬品商事（株）の河上社長は、著しい配置従事者数や配置薬生産額の減少並びに配置販売業第一線の苦戦が叫ばれている中、統合して設立される新会社で「先用後利」の原点に則った配置薬業を実践し、あるいは配置薬業の新たな仕組みづくりに挑戦して、「まずは年間売上げ40億円を目指したい」としている。また「最近とかく業界内で忘れがちな、配置販売業という対面販売のメリットを、最大限に活かした付加価値の高い、元気で夢のある配置販売会社を目指して、更に一層大きく前進して行きたい」と話している。

新会社の本社は富山市内に置き、資本金や出資比率は今後詰める。また、今後、合流を模索する他の配置販社にも、経営統合への参加などを呼び掛けるという。

佐藤薬品工業（株）取締役会長で全配協名誉会長の佐藤又一氏が8月10日に逝去された。99歳。同氏は昭和26年に同社を創業、カプセル剤製造を切掛けとし奈良県最大の製薬会社に育てた。お別れ会は9月25日11時30分よりシェラトン都ホテル大阪。

（株）富士薬品相談役の高柳貞夫氏が7月8日に逝去された。84歳。昭和34年、結婚を機に高柳薬品商会に入社し、配置最大手の販社に拡大させ、ドラッグストアチェーンセイムズ、配置薬製造を手始めに医療用医薬品製造部門を従える複合製販企業へと成長させた。お別れの会は8月28日にホテルニューオータニで執り行われた。

本件に関するお問合せ先 **日本置き薬協会 事務局**

〒332-0034 埼玉県川口市並木2-30-6 内外救急薬品内
Tel 080-5514-7511（有馬） fax 048-251-9657